

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

大山町教育委員会

令和3年5月27日に実施した「全国学力・学習状況調査」の大山町の結果について公表します。

今年度、この調査は、国語と算数・数学の2教科についての調査であり、児童生徒の学力の全てを見ることはできませんが、町内の各学校ではこの結果を一つの手がかりとし、成果と課題を明らかにして今後の教育活動に生かしていこうとしています。

大山町教育委員会では、学校の取組の進捗状況を把握しつつ、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

I 調査の概要

1 調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

3 調査内容

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

4 調査日時

令和3年5月27日（木）

5 大山町の参加状況

- 参加学校数 7校（小学校4校、中学校3校）
- 参加児童生徒数 228人（小学校6年生104人、中学校3年生124人）

6 調査結果の処理

- 学力調査・質問紙調査の結果とも、国がデータ処理したものと大山町が独自にデータ処理したものを使用しています。

※ 結果の分析に当たって、国・県と比べて平均正答率等の差に応じて次のように表現しています。

- ・差が1%未満の場合、「ほぼ同等」
- ・差が1%以上 5%未満の場合、「やや高い(低い)」「やや多い(少ない)」「やや大きい(小さい)」
- ・差が5%以上 10%未満の場合、「高い(低い)」「多い(少ない)」「大きい(小さい)」
- ・差が10%以上の場合、「かなり高い(低い)」「かなり多い(少ない)」「かなり大きい(小さい)」

II 教科に関する調査結果

1 小学校

データ1 学力調査結果（小学校）

（1）小学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国と比較して国語、算数ともにやや低い。
- 大山町全体の平均正答率は、国と比較して国語、算数ともにやや低く、県と比較してほぼ同等である。

（2）国語について

- 評価の観点「知識・技能」の平均正答率が、国と比較して、やや高い。（国+3.2%）
- 学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が、国と比較してやや高い。（国+3.2%）
- 問題形式「短答式」において、平均正答率が、国と比較して高い。（国+5%、県+1.6%）
- 全体の平均正答率において、学校間の差がかなり大きい。（差18.0%）
- 学習指導要領の領域等「読むこと」において、学校間の差がかなり大きい。（差21.5%）
- 問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。（差22.4%）

(3) 算数について

- 学習指導要領の領域等「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の平均正答率が、国や県と比較して高い又はやや高い。(数と計算 県+1.0%) (図形 国+0.8%、県+0.8%) (測定 国+4%、県+5.9%) (変化と関係 国+0.4%、県+0.8%)
- 学習指導要領の領域等「図形」において、学校間の差がかなり大きい。(差 21.4%)
- 評価の観点「思考・判断・表現」において、学校間の差がかなり大きい。(差 16.2%)
- 問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 23.8%)

2 中学校

データ 2 学力調査結果 (中学校)

(1) 中学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国と比較すると国語、数学ともにやや低い。
- 大山町全体の平均正答率は、国と比較して、国語はやや高く、数学ではほぼ同等である。また、県と比較すると、国語、数学ともにやや高い。

(2) 国語について

- 学習指導要領の領域等「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+3.4%、県+3.8%)
- 問題形式「記述式」の平均正答率が、国と比較してやや高く、県と比較すると高い。(国+3.5%、県+5.9%)
- 全体の平均正答率において、学校間の差が大きい。(差 7.0%)
- 学習指導要領の領域等「書くこと」、評価の観点「書く能力」において、学校間の差がかなり大きい。(差 12.4%)
- 問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 14.2%)

(3) 数学について

- 学習指導要領の領域等「資料の活用」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+4.7%、県+3.2%)
- 問題形式「記述式」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+1.0%、県+3.2%)
- 全体の平均正答率において、学校間の差が大きい。(差 8.0%)
- 学習指導要領の領域等「数と式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 15.2%)
- 評価の観点「数学的な技能」において、学校間の差がかなり大きい。(差 12.1%)

○問題形式「短答式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 11.7%)

Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ共通）

1 小学校

データ3 小学校児童質問紙回答結果集計

(1) 鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目

- ・ 住んでいる地域の行事に参加している・・・国より 16.6%高い

(2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○県と比較して、5%以上高い項目

- ・ 国語の勉強は好きだ

○県と比較して、5%以上低い項目

- ・ 自分でやると決めたことはやり遂げようとしている
- ・ 人が困っている時は進んで助けている
- ・ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる
- ・ 5年生までに受けた授業で学級の友達と話し合う活動で相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた
- ・ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う
- ・ 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた
- ・ 5年生までに受けた授業は、自分に合った考え方、教材、学習時間になっていた
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている
- ・ 学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている
- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由と関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている
- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大で休校になった時、勉強について不安を感じた
- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大で休校になった時、計画的に学習を続けることができた

○県と比較して、10%以上低い項目

- ・ 学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う

○学校間の差が25%以上の項目

- ・ 難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している
- ・ 学校に行くのは楽しいと思う
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしている
- ・ 5年生までに受けた授業で学級の友達と話し合う活動で相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた
- ・ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う
- ・ 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている
- ・ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う
- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている
- ・ 算数の勉強は好きだ
- ・ 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える
- ・ 英語の勉強は好きか
- ・ 解答時間は十分である（国語）

2 中学校

データ4 中学校生徒質問紙回答結果集計

(1) 鳥取県と国を比較して、大きな差がみられる項目

- ・ 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている・・・国より6.1%低い
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している・・・国より9.7%高い
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う・・・国より6.0%高い
- ・ 学級活動の話し合いを生かして今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる・・・国より7.0%高い

- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大で休校になった時、勉強について不安を感じた・・・国より 11.2%高い
- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大で休校になった時、規則正しい生活ができた・・・国より 5.7%高い

(2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○県と比較して、10%以上高い項目

- ・ 将来の夢や目標を持っている

○県と比較して、5%以上高い項目

- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している
- ・ 家で、計画を立てて勉強をしている
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・ 1,2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた
- ・ 学級活動の話し合いを生かして今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる
- ・ 国語の勉強は好きだ
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ・ 数学の授業の内容はよくわかる
- ・ 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ・ 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考え
- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大で休校になった時、勉強について不安を感じた

○県と比較して、5%以上低い項目

- ・ 国語の授業の内容はよくわかる

○県と比較して、10%以上低い項目

該当項目なし

○学校間の差が25%以上の項目

- ・ 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている
- ・ 国語の勉強は好きだ
- ・ 国語の授業の内容はよくわかる
- ・ 数学の勉強は好きである
- ・ 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う

- ・ 新型コロナウイルスの感染が拡大で休校になった時、規則正しい生活ができた

3 小学校と中学校の比較

データ5 質問紙調査結果の小学校と中学校の比較

(1) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○中学校と比較して、小学校の方が10%以上高い項目

- ・ 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている。
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している
- ・ 国語の授業の内容はよくわかる

○中学校と比較して、小学校の方が5%以上高い項目

- ・ 新聞を読んでいますか
- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている
- ・ 算数（数学）の勉強は好きだ

○中学校と比較して、小学校の方が5%以上低い項目

- ・ 学校に行くのは楽しいと思う
- ・ 小学校5年生や中学1・2年生までに受けた授業で学級の友達と話し合う活動で相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた。
- ・ 小学校5年生や中学1・2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる
- ・ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う
- ・ 国語の授業では言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。

○中学校と比較して、小学校の方が10%以上低い項目

- ・ 自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている
- ・ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる
- ・ 小学校5年生や中学校1・2年生までの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う
- ・ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきこ

とを決めて取り組んでいると思う

- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由と関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている

IV 調査結果のまとめ

1 学力調査結果について

- (1) 小学校においては、国と比較して国語、算数ともにやや低い平均正答率となっている。

国語では、学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」でやや高い正答率を示している。単元をつらぬく言語活動を大切にした授業づくりの成果が出ていると思われる。

算数では「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」の4つの領域において成果が見られた。特に「測定」領域においては、県よりも5ポイント以上高い正答率を示すことができた。めあて—まとめ—ふりかえりのあるゴールを明確にした授業づくり、授業のねらいに沿った適用題を用意することや児童の習熟度に応じた適用題を用意するなど、適用題の質と量を意識した取り組みが成果となって表れていると思われる。

また、朝学習や放課後学習の取り組み、家庭学習の取り組み等、学校組織としての取組が児童の学力向上に果たした役割は大きいと思われる。

- (2) 中学校においては、国や県と比較して国語でやや高い平均正答率となり、数学では国と比較してほぼ同等、県と比較するとやや高い正答率となっている。

国語については、4領域全ての項目で、国や県をやや上回っている。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については3ポイント以上、上回っており、小学校から続いている「言語活動を大切にした授業づくり」を進めてきた成果だと考えられる。

数学は、「数と式」、「資料の活用」の2領域は、国や県をやや上回っており、「図形」、「関数」の2領域は、国よりやや下回っており、県とほぼ同等である。

- (3) 学校間の平均正答率の差については、小学校では国語18%、算数12%の差となり、中学校では、国語7%、数学8%の差となっている。

領域別に見ると、小学校国語では「読むこと」領域において21.5%の差があり、算数では「図形」において約21.4%の差となっている。

また、中学校国語の「書くこと」の領域で12.4%、数学の「数と式」の領域では15.2%の差が生じている。

各学校が自校の結果をしっかりと分析し、学級経営や生徒指導を含め、日々の授業改善に取り組むとともに、放課後学習や家庭学習などとの関連を図り、学習内容を定着するための反復徹底を図るサイクルの構築が必要である。

校区の小・中学校が9年間を見通した生徒像を共有し、今回の調査で見えて

きた課題を共有し学力向上に取り組むことが重要である。

2 質問紙調査結果について

- (1) 小学校においては、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的な回答割合が一昨年はやや低かったが、今年はやや高い結果となった。子ども達の自尊心や自己有用感を高める取組の成果の現れだと考える。一方で「学校に行くのは楽しいと思う」の肯定的な回答割合は、国や県よりやや低い結果となっている。また、「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う」などの学級活動の取り組みに関する項目は、国や県よりかなり低い結果を示している。わかった、できたを実感できる授業づくり、安心して過ごせる学級づくり、決めたことを努力して取り組んでいける学級づくりの取り組みが必要であると思われる。

- (2) 中学校においては、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目において、肯定的な回答割合が国や県よりも高い。定期考査に向けた取組だけでなく、大山町版家庭学習の手引きの活用により、普段の家庭学習を見直す取組が少しずつ成果となって現れている。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目では、県よりもやや高い結果となっている。各学校で取り組んでいる「ふるさと学習」の成果と考えられる。一方で、「携帯電話・スマートフォンやコンピューターなどの使い方について家の人と約束したことを守っている」は国より低く、県とほぼ同等である。今後 ICT 機器を活用した家庭での学習が増えていくことを考えると、子どもや保護者への啓発や指導がさらに必要であると思われる。